

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第15回

山本博也

(1) カスのような言葉というが

カスのような言葉と言いますが、本当はそのような言葉はないのです。ただ、聞く人がカスのような言葉だと思っただけなのです。カスのような言葉として受け取っていたのでは、そこから養分を取ることになるはずがありません。

カスと思うも思わぬも、その人の心の持ち方ひとつですが、カスと思ったときから、カスはカスだけになってしまふのです。カスもあろうが、カスばかりでは

ないはずだ、どこかに役に立つものがあるはずだという心で、何事も見られるときに、万物を尊び愛することができます。

(出居清太郎先生の言葉から)

この4月から、NHKの朝の連続ドラマ「らんまん」が放送されています。このドラマの主人公のモデルになっているのは世界的な植物学者の牧野富太郎です。その牧野博士に、作家の山本周五郎は雑誌記者だった若い時にインタビューしたことがあったそうで、その時なにげなく「雑草」という言葉をつかったら、博士に「きみ、世の中に『雑草』という草

は無い。どんな草にだって、ちゃんと名前がついている」と言われたそうです。

1500もの植物に命名をしたという博士ならではの言葉ですが、それは博士があらゆる草花に精通していたからというよりも、むしろ博士の、一つ一つの草花を敬愛する心から出た言葉ではなかったでしょうか。

私たちは、畑に生えた草たち、花壇に生えた草たちを「雑草」とよびますが、それは、人間が勝手に設定した目的に合わないというだけのこと、草たちの価値が低いということではありません。私が散歩でよく通るコースに、歩道に銀杏の木が植えられた道路があります。今は両側の木々に青葉が繁って目に鮮やか

かです。その木々は一本一本が小さい土のスペースに立っていて、その土には草が生えています。先日その草の中に、子どもの頃「スイスイ」と呼んで、草相撲をさせて遊んだ草を久しぶりに見つけました。またその中に、黄やピンクや白やの小さい花が咲いているのを発見して、その美しさに驚きました（なんとも奥ゆかしい！）。いつもは、ああ雑草が生えているなど、無視してただ通り過ぎていたのでした。

(2) 「いのち」に差別はない

地上の万物は、人も動物も植物もすべて同じ一つの空気をすい合い、同じ太陽の光と熱とを分け合って生かされている。天地の恩恵に浴して「いのち」を



ハナミズキ 大西 恵

与えられていることにおいて万物これ一である。「いのち」に差別はない。

だ
(3) 松の木は曲がったままで真っすぐ

曲がった松の木は曲がったままで真っすぐである。なぜなら曲がったままで、それは自然の姿であり、自然のままの生活を素直に表しているのである。ありのままの姿、ありのままの気持ち、それでよい。

(出居清太郎先生
の言葉から)

今年の3月から4月末にかけて、自然の生命力

の強さにあらためて感動させられました。

3月末の某日、いつもの散歩で古城の桜並木のそばの草っ原に足を踏み入れました。葉桜を見上げて、今年の桜は短かかったなあと思った途端、強いにおいが鼻をつきました。何だ？ と思った瞬間、あ、草のにおいだ！ と気づきました。私の、桜を惜しむ気持ちを押しつけるかのように、猛然と草たちが生々してきていたのです。

4月中頃の某日、ふと気づくと、冬の間、葉をすべて落として骸骨のようになっていた木々の枝々に若葉が萌え出て、そのみどりと光沢が目にしみました。さらに4月末の某日、古城の入口の坂にさしかかって、ふと見上げると、早くも

種々の色目の新緑が木々たちの枝をおおいつくし、圧倒的な迫力で私におおいかぶさってきました。

木の種類はいろいろ、まさに雑木林ですが、むろん「雑木」という名の木があるわけではなくて、それぞれに名前があり、幹の表情、枝ぶり、葉の大きさ・形・色、それぞれです。

草も木も、与えられた環境の中で、自然の大きな生命力そのままに、それぞれに特徴を表出しながら、自然に、のびのびと生々しています。人間たちがどう呼ぶかなどとは関係なく、それぞれに自己のありのままの姿で力強く生きています。

人間も、自然の大きな生命力によって、一人ひとり個性を持った存在として生

かされていることにおいて、草や木と本質的には同じだといえるでしょう。

ここに思いをいたし、自分をも他人をも敬愛しながら、自分を素直に生きて、自分の花を咲かせられれば、――それがたとえ路傍にひっそりと咲く小さな花のようなものであつたとしても――、そこに喜びがあり、しあわせがあるのでではないでしょうか。

人が生きねばならない環境には、人間が作ったものにおいては、理不尽な状況も多々あります。しかしそれを引き受けて乗り越える力をも、人には自然（神）から与えられているに違いありません。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
 修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>